



南葵音楽文庫ミニレクチャー（第28回）

《乞食オペラ》とヘンデルのオペラ活動の挫折

南葵音楽文庫所蔵貴重書 The Beggar's Opera (1729年) M-6/68

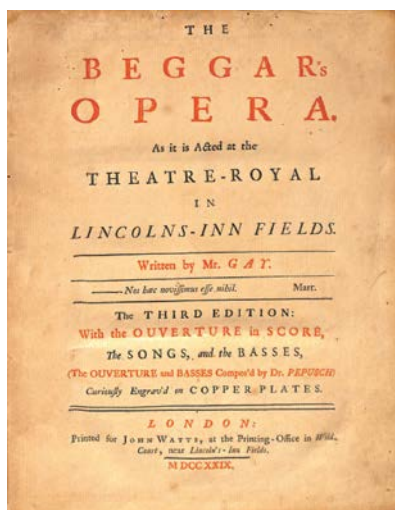
佐々木 勉

2018年6月30日

和歌山県立図書館南葵音楽文庫閲覧室

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500
[https://www.lib.wakaya
ma-c.ed.jp/nanki/](https://www.lib.wakaya.ma-c.ed.jp/nanki/)

ジョン・ゲイ台本
ヨハン・クリストフ・
ペープッシュ作曲
《乞食オペラ》1729年版
タイトルページ



ウィリアム・ホガース作
《乞食オペラ》第4場 1729年
ロンドン、テイト・ギャラリー蔵

《乞食オペラ The Beggar's Opera》

台本：ジョン・ゲイ John Gay (1685～1732年)

作曲：ヨハン・クリストフ・ペープシュ Johann Christoph Pepush (1667～1752年)

*作曲したのは序曲とバラッドの通奏低音伴奏のみ

発案：ジョンナサン・スウィフト Jonathan Swift (1667～1745年)

初演：1728年1月29日 (62回連続上演)

特徴：社会の底辺に暮らす人々を主人公にした社会風刺。バラッド・オペラ。歌と台詞から構成され、歌はバラッド（流行歌、民謡など）の旋律による「替え歌」の形で歌われる。登場人物は悪人、犯罪者。

物語：舞台は18世紀初頭のロンドン。追剥ぎマクヒースは追われる身でありながら、故買を生業にするピーチャムの娘ポリーと結婚する。怒ったピーチャムは2人を引き離すために、馴染みの監獄の看守長と策を講じてマクヒースを酒場におびき出して逮捕させる。ところがマクヒースは愛人ルーシー・ロキットとポリーの手助けで監獄から逃走する。しかし博打好きのマクヒースは、ピーチャムの仲間のトレイプス夫人の賭博場に立ち回ったことから再び逮捕され、今度は刑場送りとなる。刑が執行されるとそこに乞食が現れ、「オペラはハッピーエンドで終わらなければいけない」と主張し、何の脈絡なく、マクヒースは無罪放免となり、絞首刑にされたはずなのになぜか元気に現れて大団円となる。

風刺：社会の底辺に暮らす登場人物たち → 上流階級のイタリア語オペラ

ピーチャム → 初代イギリス首相ロバート・ウォルポール (政治的権力者)

マクヒースの愛人ルーシーとポリー → ヘンデルのオペラ《アレックスandro》(1726年) に出演し、舞台上で取っ組み合いの喧嘩をしたファウステイーナ・ボルドーニ (1697～1781年) とフランチェスカ・クッツォーニ (1696～1778年)

楽譜：初版 (1728年) 台本と歌 (バラッド) の旋律のみ

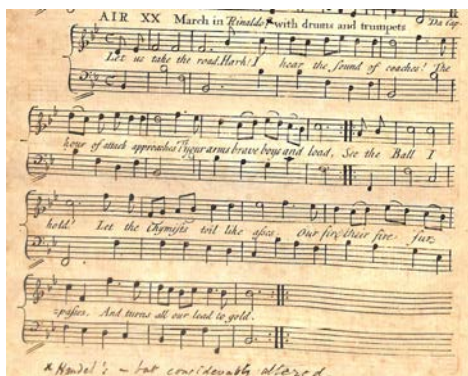
第2版 (1728年) 台本と歌の旋律、序曲

第3版 (1729年) 台本と歌の旋律と伴奏 (通奏低音)、序曲 ← 南葵音楽文庫所蔵楽譜

ヘンデルのオペラ活動 ～その栄光と挫折～

- 1711年 ロンドンで《リナルド》初演、成功。1710年にハノーファー選帝侯の宮廷楽長に任ぜられていたため、ハノーファーに赴く。
- 1712年 ロンドンを拠点としてオペラ活動を展開する決意を固め、バーリントン伯の保護を受けながらオペラを上演、上流階級に音楽を提供。
- 1714年 ハノーファー選帝侯がジョージ1世としてイギリス国王に即位。
- 1719年 国王の援助でオペラ上演団体「ロイヤル音楽アカデミー」を設立、音楽監督に任命される。イタリア・オペラの定着を図る。
- 1720年 オペラ《ラダミスト》《ゲルマニアの王オットーネ》《エジプトのジュリオ・チェーザレ》などを上演。アカデミーの作曲家、ジョヴァンニ・ボノンチーニとの対立。
- 1724年 オペラ《ラダミスト》《ゲルマニアの王オットーネ》《エジプトのジュリオ・チェーザレ》の改訂版、《タメルラーノ》を上演。ボノンチーニと対立が深刻化。
- 1727年 2月20日イギリスに帰化。6月ジョージ1世死去。
- 1728年 《乞食オペラ》(1月29日初演)の成功により、ロイヤル音楽アカデミーが経営困難に陥り、活動停止。
- 1729年 新アカデミー(第2期ロイヤル音楽アカデミー)を設立。
- 1732年 オラトリオ《エステル》成功。
次第にオペラからオラトリオへ向う(1733～41年オペラとオラトリオを並行して作曲)。
- 1733年 オペラ《オルランド》上演。新アカデミーの分裂。対立派は「貴族オペラ」を設立。
- 1737年 卒中(4月)。障害が残り、右手に麻痺。新アカデミーはヘンデル不在のままオペラ上演を続行。「貴族オペラ」解散。キャロライン王妃死去(11月～12月服喪のため劇場閉鎖)。
- 1741年 最後のオペラとなる《デイダミア》上演。
- 1742年 《メサイア》の初演成功。これ以降、オラトリオの作曲活動を展開。 1759年死去。

エア第20番(原曲:ヘンデルのオペラ《リナルド》第3幕の行進曲)



Let us take the road. Hark! I hear the sound of coaches!
さあ、道を進め。聞け、馬車の音が聞こえる。
The hour of attack approaches, To your arms, brave boys, and load.
攻撃の時が近づく、武器を取れ、勇敢な者どもよ、弾をこめろ。
See the ball I hold! Let the chymists toil like asses,
俺がぶっ放す弾丸を見る。火薬師をロバのようにこき使え。
Our fire their fire surpasses, And turns all our lead to gold.
こっちの弾が奴らの弾より上等だ。銃口をすべて金的に向ける。

エア第67番(原曲:グリーンスリーブス)



Since Laws were made for ev'ry degree,
法なんてものはすべての身分の人を縛ろうと
To curb vice in others, as well as me,
俺にだって、誰にだって枷になるように作られた。
I wonder we han't better company,
だからこんな[酷い]仲間はいたためしはない。
Upon Tyburn Tree!
縛り首の木の上さ。

But Gold from Law can take out the sting
しかし法[の抜け道]で稼いだ金が棘を抜く。
And if rich men like us were to swing,
俺たちみたいな金持ちが[吊るされて]揺れるなら、
'Twould thin the land, such numbers to string
[首をくくる]ロープの数だけ、国は貧しくやせほそる。
Upon Tyburn Tree!
縛り首の木の上さ。

グリーンスリーブス Greensleeves

① Alas, my love, you do me wrong
To cast me off discourteously
For I have loved you well and long
Delighting in your company.

繰り返し

Greensleeves was all my joy
Greensleeves was my delight
Greensleeves was my heart of gold
And who but my lady greensleeves.

② Your vows you've broken, like my heart
Oh, why did you so enrapture me?
Now I remain in a world apart
But my heart remains in captivity.

繰り返し

③ I have been ready at your hand
To grant whatever you would crave
I have both wagered life and land
Your love and good-will for to have.

繰り返し

④ If you intend thus to disdain
It does the more enrapture me
And even so, I still remain
A lover in captivity.

繰り返し

⑤ My men were clothed all in green
And they did ever wait on thee
All this was gallant to be seen
And yet thou wouldst not love me.

繰り返し

⑥ Thou couldst desire no earthly thing
but still thou hadst it readily.
Thy music still to play and sing
And yet thou wouldst not love me.

繰り返し

⑥ Well, I will pray to God on high
that thou my constancy mayst see
And that yet once before I die
Thou wilt vouchsafe to love me.

繰り返し

⑦ Ah, Greensleeves, now farewell, adieu
To God I pray to prosper thee
For I am still thy lover true
Come once again and love me.

繰り返し

(原曲の歌詞)

ああ、愛する人よ、お前は私を困らせる。
お前はつれなく私を捨てた。
私は心からお前を愛し、
そばにいただけで幸せだった。

グリーンスリーブス、私の喜び。
グリーンスリーブス、私の楽しみ。
グリーンスリーブス、私の魂の宝もの。
私のグリーンスリーブス、お前の他に誰もいない。

お前は誓いを破った、私の心もろともに。
ああ、なぜお前は私をこれほど熱狂させるのか。
離れた場所にいる今でさえも、
私の心は虜のまま。
繰り返し

お前に与える用意はできている、
お前が望むものすべてを。
お前の愛が得られるなら、
この命も土地のすべても差し出そう。
繰り返し

お前が私を軽蔑しても
私の心はますますお前の虜。
私はお前の虜のまま、
囚われの恋人のまま。
繰り返し

私の家来はみな、緑（グリーン）に身を包み、
彼らはこれまでお前に従った。
それらはすべて見ての通りだったが、
それでもお前は私を愛してはくれない。
繰り返し

お前は俗物を望むことなどできやしない、
それでもお前はそうしたがる。
お前の美しい調べは今も歌われる、
しかしお前は私を愛してはくれない。
繰り返し

仕方ない、天高き神に祈ろう、
お前が私の忠誠に気がつくように。
死ぬ前にたった一度でいいから
お前が私を愛してくれるように。
繰り返し

ああ、グリーンスリーブスよ、さようなら、
お前の繁栄を神に祈ろう。
私は今でもお前の本当の恋人、
もう一度ここに来て、私を愛しておくれ。
繰り返し